

司式 熊田雄二牧師

奏楽 浅池慶子姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 31:1 栄えに満ちたる神の都は

栄えに満ちたる神の都は 千代へしいわおのいしずえかたく

救いの石垣 高く囲めば み民の安きをたれかは乱さん アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。

主イエス・キリストの御名によって。アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言：

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 30:2 尽きせぬ愛より命の泉

尽きせぬ愛より命の泉 豊かに湧いでくめど尽きねば

み国の世継ぎは渇く時なく あふるる恵みに絶えずうるおう アーメン

公 同 の 祈 禱

祈禱書34 日本キリスト改革派教会創立記念日

きょうかい 教会のかしら イエス・キリストの父なる ちち かみ 神さま、日本キリスト につぼん 改革派教会の かいかくほきょうかい そうりつ 創立を かんしゃ 感謝します。

わたしたちの 目め しんり 真理へと ひら 開き、その 証あか 証しによってわたしたちの 心こころ 心を かんか 感化し、その けんしん 献身によって わたしたちの 意志いし 意志を つかよ 強め、わたしたちの 歩あゆ 歩むべき 道みち 道を 導みちび 導いた 創立者たちと、そのあとに 続つづ 続いた ひとびと 人々を 覚おぼ 覚えます。

わたしたちは、 つか かれ ひとむぎ にあなたに 仕え 彼ら しょうがい よろこ の生涯を 喜びます。わたしたちも、 彼ら かれ しんこう の信仰 を 受けつ 継ぎ、 かいかく こころざし たか も 改革の 志を 高く 持ち、 果たすべき 務つと めを まつと 全うして 彼らと 結むす ばれますように。(「創立 宣言」)

献 金 (黒) 創立記念日 (赤) 創立記念日 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカによる福音書6章37-42節(新約聖書113頁)

説教・祈祷 「赦された心赦す心」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 31:3 み恵み受けつつ生くる御民は
み恵み受けつつ生くる御民は はかなき楽しみむなしき富に
誇れるよびとのあざみにあえど こよなき喜びつゆも変わらじ アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

てん 天にまします われ ちち 我らの父よ
ねが 願わくは 御名を あがめ させたまえ
みくに 御国を 来たらせたまえ 御心の 天 になるごとく 地にも なさせたまえ
われ 我らの 日ちよう 用の 糧を けいよう 今日も 与えたまえ
われ 我らに 罪つみ おか する者 我らが ゆる 赦すごとく 我らの 罪つみ も ゆる 赦したまえ
われ 我らを 試こころ みに 会あ わせず 悪あく より 救すく いだ 出したまえ
くに 国と 力ちから と 栄さか えとは 限りなく 汝なんじ のもの なればなり アーメン。

* 頌 栄 68天つ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父、子、御霊の神を讃えよ 神を讃えよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

門脇献一長老

I 偽善者よ

この段落の最後に「偽善者よ」とあります。イエス様の説教を聴いているのは弟子たちと大勢の群衆です。その中に、イエス様が非難した律法学者やファリサイ派の人々がいたのでしょうか。居る可能性はあります。すでに「ナザレのイエス」は彼らにとって「お尋ね者」となっており、エルサレム始め国中からつきまとって監視していました。そんな彼らに、「偽善な律法学者ファリサイ人よ、あなたがたは災いである」と、主イエスはおっしゃっていました。彼らは神の言葉に一致しない律法を教えたり、行なったりして人々に自慢していました。

しかしここでは、偽善者は他人事とは思えません。主イエスの周りに集まっている弟子たちや群衆の問題でもあります。誰でも「偽善な律法学者ファリサイ人」になる可能性があります。現在の弟子である私たちもです。そこで、ここでは、罪の見え方が指摘されています。

他人の罪が分かるのは、自分にも同じ罪があるからです。つまり、同じ遺伝子がインプットされているので、他人の罪にセンサーが働くのです。教会学校の子供「先生、〇〇君は、お祈りの時、目を開けていたよ」。先生「どうして、それが君に分かるの？」 礼拝が終わったあとの信徒「先生、祝祷の時は、もっと手を高く上げた方がいいですよ」。牧師「どうして、それが分かるの？」

また、人の罪が見える時は、双眼鏡を逆にして「おがくず」くらいに小さく見えますが、自分の罪が見える時は、双眼鏡をそのまま使って「丸太」のように大きく見えるのです。だから、ふだんは他人の罪がチマチマ見えて嫌だなと思っているのですが、同じ罪が自分にもあると発見した時には大恥をかいた思いがするのです。いずれにせよ、おがくずも丸太も、罪はイエス・キリストによる救いによって取り除く以外に方法はありません。神に赦されて救いをいただいた者は、赦す心を広く持ちなさいと、イエス様は教えておられます。

II 日本キリスト改革派教会創立記念日

きょうは、日本キリスト改革派教会の創立記念日礼拝で、全国の改革派諸教会でそれを覚えて礼拝が献げられています。『創立宣言』から「おがくず」や「丸太」を見てみましょう。

終戦後すでに九カ月（＝1946年4月29日）、敗戦祖国の再建は種々の構想と方途によって計られつつあるが、聖書に「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなしい」とあるのはまことである。宇宙と人類を支配したもう、全知全能にして聖なる愛の神を信じるのでなければ、一国たりともよく建てられ、よく保たれる道理はない。

このたびの敗戦に当たって、宗教の自由は、はなはだしく圧迫され、われらの教会もゆがめられ、真理は大胆に主張されなかった。我らは、これを神の御前に恥じ、国のために憂う。しかし、歴史を支配したもう神の摂理により、宗教の自由は、ついに、敗戦を通して祖国日本にもたらされるにいたった。

なぜ、「宗教の自由は、はなはだしく圧迫され」たのでしょうか。特定秘密保護法のような治安維持法と、戦争に協力させるための宗教団体法が作られたからです。戦時中、

国民の「宗教の自由は、はなはだしく圧迫され」たのは明らかですし、「われらの教会もゆがめられ」たのも明らかです。

教会はどのようにゆがめられたのでしょうか。信仰の一致がないのに、教会合同がなされました。上福岡キリスト教協議会には、カトリックとバプテストと改革派の三つが参加していますが、これは、教会合同ではありません。信仰が一致する部分で交流しましょうというものです。カトリックとプロテスタントは、使徒信条を中心とする古代信条で一致できます。

三位一体やキリストの二性一人格では一致できるのですが、信仰のみによって救われるという福音主義においては一致できないのです。バプテストと改革派は、宗教改革の信条、信仰義認の福音主義においては一致できます。幼児洗礼や洗礼のスタイルでは一致できません。

また教会政治もカトリックは監督制、改革派は長老制、バプテストは会衆制であるので、決め方が一致できません。信条や教会政治が一致していないと交流はできても合同はできないのです。

しかし、戦争遂行のために合同させられてしまったので、教会はゆがめられ、真理は大胆に主張できませんでした。「信条や教会政治が一致していないと教会合同はできない」と、創立者たちは主張したのですが、全体として多くの教会が戦争のための合同に参加してしまいました。真理とは、神への信仰告白ですから、「我らはこれを神の御前に恥じる」と懺悔したのです。

Ⅲ 創立30周年「教会と国家に関する信仰の宣言」

しかし、これは「おがくず」に過ぎませんでしたと、30年経って「創立30周年宣言 = 教会と国家に関する信仰の宣言」は告白しました。

創立にあたって指導的な役割を果たした教師たちが、戦時中、教会合同にさいし、旧日本キリスト教会内において、「聖書の規範性、救いの恩恵性、教会の自律性」という三原則を掲げて反対し、また国家神道体制下における神社参拝の強要に屈しなかった信仰の戦いは、日本キリスト改革派教会の創立およびその後の歩みと深いかわりをもつものでありました。

しかし、私たちは、宗教団体法下の教会合同に連なったものとして、同時代の教会が犯した罪とあやまちについて共同の責任を負うものであることをも告白いたします。戦時下に私たち日本の教会は、天皇を現人神とする国家神道儀礼を拒絶しきれなかった偶像崇拜、国家権力の干渉のもとに行なわれた教会合同、聖戦の名のもとに遂行された戦争の不当性とりわけ隣人諸国とその兄弟教会への不当な侵害に警告する見張りの務めを果たし得ず、かえって戦争に協力する罪を犯しました。

「国家権力の干渉のもとに行なわれた教会合同」は、「天皇を現人神とする国家神道儀礼を拒絶しきれなかった偶像崇拜」、「聖戦の名のもとに遂行された戦争の不当性とりわけ隣人諸国とその兄弟教会への不当な侵害」にかかわっていたのです。この「丸太」は、創立時にはよく見えず、30年経って大きく見えてきました。

今、宗教の自由は、世界的に厳しくなっています。日本では「天皇を中心とする神の国」のもとに国民をまとめたい指導者たちの声が、次第に大きくなっています。日本国憲法を変えたい勢力は、国家体制を元に戻したいのです。明治天皇は神聖にして侵すべから

ずの神であり元首であったと、明治維新の国家体制に戻りたいのです。

私たちの教会は「神の御前に恥じた」のですから、二度と真理を曲げてはなりません。いつの時代も、いずれの国家も、戦争を着々と準備する段階で、国家が神格化することを認識していないといけません。そして国民をまとめる手段として宗教が取り込まれそうになる時、怪しげな「神の国」が登場します。教会とキリスト者は、この世のいかなる国をも、聖書が語る神の国と混同する過ちを繰り返してはなりません。その誤った教えが、かつて、アジア諸国の教会を圧迫する罪を正当化し、侵略に加担する罪となりました。それが創立宣言の悔い改めです。